

目的 われわれは被服を通して、その人の職業、地位、性格、TPOなどに関する印象を形成する。これらの印象形成に被服のイメージがどのように関連しているかについて、職業及びTPOに対する印象形成と被服のイメージとの関係を、スタイル画のスライド実験により考察した。

方法 10枚のスタイル画の白黒スライド写真を用いて、女子大生(2年及び3年生)109名を被験者として、被服のイメージ評価の実験及び印象形成の実験を行なった。

(1)被服のイメージ評価の実験では、SD法(15形容語対、5段階尺度)により、被服イメージの評価を行なった。評定結果に対して、因子分析法によりイメージの基本的因子を抽出し、各スタイル画を特徴づけた。(2)印象形成の実験では、職業及びTPO(教師など5職業、記念パーティなど4TPO場面)に対するスタイル画の印象評定(4段階尺度)を行なった。(3)被服のイメージと印象形成との関係を因子分析法、及び双対尺度法により検討した。

結果 (1)被服のイメージの基本的因子として、性的因子、個性因子、活動性因子が抽出された。(2)職業及びTPO場面の印象形成に影響する被服のイメージ因子としては、カジュアル性 \leftrightarrow フォーマル性の因子と、個性 \leftrightarrow 平凡の因子が特に関係している。(3)被服による職業やTPOの印象形成には一定の傾向がみられるが、これらの傾向は初対面の服装の注目程度や、印象形成に対する考え方などにより、さらに特徴づけることが可能である。